

# 学校保健の各種職務に対する 養護教諭，保健主事，学校薬剤師の意識

松本健治\*・国土将平\*  
喜多川 香\*\*・祝部大輔\*\*\*

## Awareness of School Health Duties Among School Nurses, Health Directors, and School Pharmacists

MATSUMOTO Kenji\*, KOKUDO Shohei\*  
KITAGAWA Kaori\*\* and HOURI Daisuke\*\*\*

キーワード：学校保健，養護教諭，保健主事，学校薬剤師，職務執行

Key words：school health, school nurse, health director, school pharmacist, duty execution

### はじめに

近年，学校においても PCB 使用照明器具やアスベストの問題など環境衛生に関する問題の発生が続いている。その上，従来の飲料水や照度などに加え，ホルムアルデヒドなどの揮発性有機化合物（以下 VOC）や生物汚染としてダニアレルゲン量なども注目されるようになり，学校の環境衛生に関する問題も多様化してきている。それに伴って「学校環境衛生の基準」は，平成 16 年に大幅な改訂<sup>1), 2)</sup> がなされ，環境衛生検査の意義はより大きくなってきていると考えられる。しかし，基準を変えることは新たな検査項目の追加や，検査方法の変更への対応が教育現場に迫られることであり，それが専門知識や高額な検査機器を必要とするものである場合，大きな負担となることが危惧される。

学校の環境管理において重要な役割を果たすと考えられるのが，養護教諭，保健主事，学校薬剤師の三者である。養護教諭と保健主事は，教員の立場から日常的な管理を担っており，学校薬剤師は，環境衛生検査の定期検査において専門家として検査を実施・監督する役目がある。適切に環境管理が行われるためには，実態を把握し，管理の課題を明らかにすることと，その課題に対して実際に対策を講じることが必要であり，三者が連携し取り組むことが求められる。

---

\* 鳥取大学地域学部地域環境学科

\*\* 鳥取大学教育地域科学部 4 期生（現 鳥取県農林水産部林政課）

\*\*\* 鳥取大学医学部医学科

本研究は、養護教諭、保健主事、学校薬剤師の三者における学校保健の各種職務に対して、「特に重視する職務」、「時間を割いている職務」、「困難、負担を感じている職務」についての意識を調査し、今後の学校保健に資することを目的とした。

## 調査の対象および方法

調査の対象は、鳥取県内の小・中学校の養護教諭、保健主事、および学校薬剤師とした。養護教諭には、平成17年11月25日の県養護教諭部会にて、予め回答の秘密は守られること、氏名は無記名であることを文書と口頭により説明し、アンケートへの同意を得た上で、無記名の自己記入式質問紙（アンケート用紙）を配布し調査を行った。また、学校薬剤師、保健主事については、回収期限を平成17年12月23日とし、郵送で調査を依頼した。学校薬剤師で複数校を兼任している場合、回答は担当している学校の中で最も規模の大きい学校における取り組みについてとした。また、養護教諭が保健主事を兼任している場合は、一人が複数の質問紙に回答することがないようにするため養護教諭の質問紙のみの依頼とした。

質問紙には、検査事項「ダニまたはダニアレレルゲン」に関する項目、保健室の寝具に関する項目、環境衛生検査に関する項目、環境衛生検査以外の職務の参与に関する項目、学校保健の各種職務に対する意識に関する項目が含まれる。今回、学校保健の各種職務に対する意識に関する項目の「特に重視する職務」、「特に時間を割いている職務」、「特に困難、負担を感じている職務」について検討した。

質問内容は、「特に重視する職務」、「特に時間を割いている職務」、「特に困難、負担を感じている職務」に対して、環境衛生検査の15項目（A～O）とその他の各種職務11項目（P～Z）の中から、それぞれ5つを選択してもらった。すなわち、選択項目は以下のA～Zの26項目である。

A 照度及び照明環境, B 騒音及び騒音環境, C 教室等の空気, D 飲料水の管理, E 雨水等利用施設の水の管理, F 学校給食の食品衛生, G 水泳プールの管理, H 排水の管理, I 学校の清潔, J 机, イスの整備, K 黒板の管理, L 水飲み・洗口・手洗い場・足洗い場の管理, M 便所の管理, N ごみの処理, O ネズミ, 衛生害虫等, P 学校保健委員会並びに保健計画の運営, Q 地域住民, 保護者との連携, R 学校薬剤師（回答者が学校薬剤師の場合は学校医）, 教育委員会等, 協力機関との連携, S 環境衛生検査等, 各種検査の実施と事後処置, T 清潔, 衛生等の実質的な施設・設備管理, U 動物の飼育, 緑化等情操面に配慮した環境整備, V 健康に関する教科の計画, 実施, W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み, X 児童生徒の健康状態, 発達等, 情報の把握, Y 児童生産の傷病時の応急処置, Z その他

解析の方法は、全質問の回答を単純集計し、役職間（2群）の比率の差を評価するためにフィッシャーの正確確率検定（Fisher's exact test）を用い、またスピアマンの順位相関係数を求めた。各職務について「特に重視する」、「時間を割いている」、「困難、負担を感じている」と答えた人数（ $a$ ）と、有効回答者数 $n$ から $a$ を引いた人数を、2役職の $2 \times 2$ 表で比率の差の検定をフィッシャーの直接確率法を用いて検定した。

## 結果

回収率は、養護教諭が34.1%（75/220名）、学校薬剤師が76.5%（65/85名）、保健主事が41.8%

(66/178名)であった。養護教諭，学校薬剤師，保健主事の各職務に対しての意識の結果を図1に示す。また，三者の上位5つの項目を表1に示す。

### 1. 重視する職務

養護教諭が特に重視する職務は，1位「X 児童生徒の健康状態，発達等，情報の把握」67名(94%)，2位「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」44名(62%)，3位は同率で「Q 地域住民，

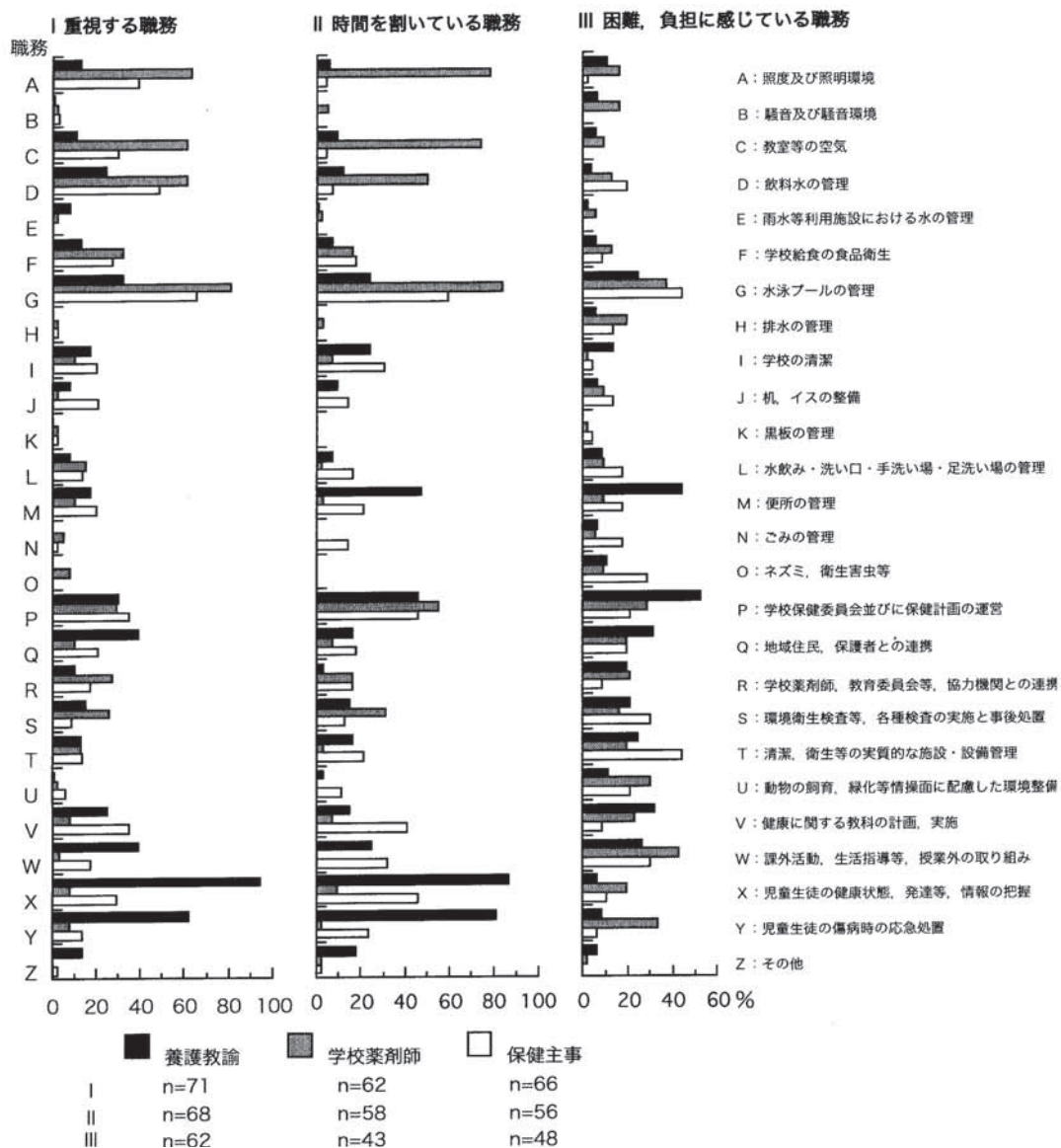


図1 養護教諭，学校薬剤師，保健主事の各職務に対しての意識

表1 各職務に対しての意識の上位5つの項目

項目	重視する職務					時間を割いている職務					困難, 負担に感じている職務				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
養護教諭	X	Y	Q/W	G		X	Y	M	P	W	P	M	V	Q	W
薬剤師	G	A	C/D	F		G	A	C	P	D	W	G	Y	U	P
保健主事	G	A	P/V	C		G	P/X		V	W	G/T		S/W		O

保護者との連携」と「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み」28名(39%), 5位「G 水泳プールの管理」23名(32%)であった(図1-I, 表1)。

学校薬剤師が特に重視する職務は, 1位「G 水泳プールの管理」50名(81%), 2位「A 照度及び照明環境」39名(63%), 3位は同率で「C 教室等の空気」と「D 飲料水の管理」38名(61%), 5位「F 学校給食の食品衛生」20名(32%)であった(図1-I, 表1)。

保健主事が特に重視する職務は, 1位「G 水泳プールの管理」43名(65%), 2位「A 照度及び照明環境」26名(39%), 3位は同率で「P 学校保健委員会並びに保健計画の運営」と「V 健康に関する教科の計画, 実施」23名(35%), 5位「C 教室等の空気」20名(30%)であった(図1-I, 表1)。

役職間で「重視する職務」の順位にどの程度関連があるのか順位相関を求めてみると, 養護教諭 vs 保健主事間に0.645, 学校薬剤師 vs 保健主事間には0.721の相関が得られた(表2A)。

役職間で有意差が見られた職務は, 養護教諭 vs 学校薬剤師間で「A 照度及び照明環境」, 「C 教室等の空気」, 「D 飲料水の管理」, 「F 学校給食の食品衛生」, 「G 水泳プールの管理」, 「O ネズミ衛生害虫等」, 「Q 地域住民, 保護者との連携」, 「R 学校薬剤師, 教育委員会等, 協力機関との連携」, 「V 健康に関する教科の計画, 実施」, 「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取

表2 役職間の順位相関

## A: 重視する職務

	養護教諭	学校薬剤師	保健主事
養護教諭			
学校薬剤師	0.382		
保健主事	0.645**	0.721***	

## B: 時間を割いている職務

	養護教諭	学校薬剤師	保健主事
養護教諭			
学校薬剤師	0.295		
保健主事	0.794***	0.293	

## C: 困難, 負担に感じている職務

	養護教諭	学校薬剤師	保健主事
養護教諭			
学校薬剤師	0.536**		
保健主事	0.548**	0.475*	

\*P &lt; 0.05, \*\*P &lt; 0.01, \*\*\*P &lt; 0.001

表3 「重視する職務」の役職間で有意差がみられた項目

	A	C	D	E	F	G	J	O
養護教諭 vs 薬剤師	***	***	***		**	***		*
養護教諭 vs 保健主事	***	**	**	*	*	***	*	
薬剤師 vs 保健主事	**	***					***	*
	Q	R	S	V	W	X	Y	Z
養護教諭 vs 薬剤師	***	**		**	***	***	***	**
養護教諭 vs 保健主事	*				**	***	***	**
薬剤師 vs 保健主事			*	***	*	**		

\* P < 0.05, \*\* P < 0.01, \*\*\* P < 0.001

り組み], 「X 児童生徒の健康状態, 発達等, 情報の把握」, 「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」, 「Z その他」であった(表3)。

養護教諭 vs 保健主事間では, 「A 照度及び照明環境」, 「C 教室等の空気」, 「D 飲料水の管理」, 「E 雨水等利用施設の水の管理」, 「F 学校給食の食品衛生」, 「G 水泳プールの管理」, 「J 机, イスの整備」, 「Q 地域住民, 保護者との連携」, 「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み」, 「X 児童生徒の健康状態, 発達等, 情報の把握」, 「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」, 「Z その他」で有意差が見られた(表3)。

学校薬剤師 vs 保健主事間では, 「A 照度及び照明環境」, 「C 教室等の空気」, 「G 水泳プールの管理」, 「J 机, イスの整備」, 「O ネズミ衛生害虫等」, 「S 環境衛生検査等, 各種検査の実施と事後処置」, 「V 健康に関する教科の計画, 実施」, 「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み」, 「X 児童生徒の健康状態, 発達等, 情報の把握」で有意差が見られた(表3)。

## 2. 時間を割いている職務

養護教諭が時間を割いている職務は, 1位「X 児童生徒の健康状態, 発達等, 情報の把握」59名(87%), 2位「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」55名(81%), 3位「M 便所の管理」32名(47%), 4位「P 学校保健委員会並びに保健計画の運営」31名(46%), 5位「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み」17名(25%)であった(図1- II, 表1)。

学校薬剤師は, 1位「G 水泳プールの管理」49名(84%), 2位「A 照度及び照明環境」45名(78%), 3位「C 教室等の空気」43名(74%), 4位「P 学校保健委員会並びに保健計画の運営」32名(55%), 5位「D 飲料水の管理」29名(50%)であった(図1- II, 表1)。

保健主事は, 1位「G 水泳プールの管理」33名(59%), 2位は同率で「X 児童生徒の健康状態, 発達等, 情報の把握」と「P 学校保健委員会並びに保健計画の運営」26名(46%), 4位「V 健康に関する教科の計画, 実施」23名(41%), 5位「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み」18名(32%)であった(図1- II, 表1)。

役職間で「時間を割いている職務」の順位にどの程度関連があるのか順位相関を求めてみると, 養護教諭 vs 保健主事間に0.794の相関が得られた(表2B)。

役職間で有意な差が見られた職務は, 養護教諭 vs 学校薬剤師間で「A 照度及び照明環境」, 「C 教室等の空気」, 「D 飲料水の管理」, 「G 水泳プールの管理」, 「I 学校の清潔」, 「J 机,

表4 「時間を割いている職務」の役職間で有意差がみられた項目

	A	C	D	G	I	J	L	M	N
養護教諭 vs 薬剤師	***	***	***	***	*	*		***	
養護教諭 vs 保健主事				***				**	**
薬剤師 vs 保健主事	***	***	***	**	**	**	**	**	**
	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
養護教諭 vs 薬剤師	*	*	*			***	***	***	**
養護教諭 vs 保健主事	*				***		***	***	**
薬剤師 vs 保健主事		*	**	**	***	***	***	***	

\* P < 0.05, \*\* P < 0.01, \*\*\* P < 0.001

いすの整備], 「M 便所の管理」, 「R 学校薬剤師, 教育委員会等, 協力機関との連携」, 「S 環境衛生検査等, 各種検査の実施と事後処置」, 「T 清潔, 衛生等の実質的な施設・設備管理」, 「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み」, 「X 児童生徒の健康状態, 発達等, 情報の把握」, 「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」, 「Z その他」であった(表4)。

養護教諭 vs 保健主事間では, 「G 水泳プールの管理」, 「M 便所の管理」, 「N ごみの処理」, 「R 学校薬剤師, 教育委員会等, 協力機関との連携」, 「V 健康に関する教科の計画, 実施」, 「X 児童生徒の健康状態, 発達等, 情報の把握」, 「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」, 「Z その他」に有意差が見られた(表4)。

学校薬剤師 vs 保健主事間では, 「A 照度及び照明環境」, 「C 教室等の空気」, 「D 飲料水の管理」, 「G 水泳プールの管理」, 「I 学校の清潔」, 「J 机, いすの整備」, 「L 水飲み・洗口・手洗い場・足洗い場の管理」, 「M 便所の管理」, 「N ごみの処理」, 「S 環境衛生検査等, 各種検査の実施と事後処置」, 「T 清潔, 衛生等の実質的な施設・設備管理」, 「U 動物の飼育, 緑化等情操面に配慮した環境整備」, 「V 健康に関する教科の計画, 実施」, 「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み」, 「X 児童生徒の健康状態, 発達等, 情報の把握」, 「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」で有意差が見られた(表4)。

### 3. 困難, 負担に感じている職務

養護教諭が困難, 負担に感じている職務は, 1位「P 学校保健委員会並びに保健計画の運営」32名(52%), 2位「M 便所の管理」27名(44%), 3位「V 健康に関する教科の計画, 実施」20名(32%), 4位「Q 地域住民, 保護者との連携」19名(31%), 5位「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み」16名(26%)であった(図1-Ⅲ, 表1)。

学校薬剤師は, 1位「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み」18名(42%), 2位「G 水泳プールの管理」16名(37%), 3位「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」14名(33%), 4位「U 動物の飼育, 緑化等情操面に配慮した環境整備」13名(30%), 5位「P 学校保健委員会並びに保健計画の運営」12名(28%)であった(図1-Ⅲ, 表1)。

保健主事は, 1位は同率で「G 水泳プールの管理」と「T 清潔, 衛生等の実質的な施設・設備管理」19名(44%), 3位は同率で「W 課外活動, 生活指導等, 授業外の取り組み」と「S 環境衛生検査等, 各種検査の実施と事後処置」13名(30%), 5位「O ネズミ, 衛生害虫等」12名(28%)であった(図1-Ⅲ, 表1)。

表5 「困難、負担に感じている職務」の役職間で有意差がみられた項目

	A	B	C	D	G	H	M
養護教諭 vs 薬剤師						*	***
養護教諭 vs 保健主事				**	*		**
薬剤師 vs 保健主事	*	**	*				
	N	O	P	T	U	V	Y
養護教諭 vs 薬剤師			*		*		**
養護教諭 vs 保健主事		*	**	*		**	
薬剤師 vs 保健主事	*	*		*			**

\* P < 0.05, \*\* P < 0.01, \*\*\* P < 0.001

役職間で「困難、負担に感じている職務」の順位にどの程度関連があるのか順位相関を求めてみると、いずれの役職間でも有意な相関が得られた（表2C）。

役職間で有意差がみられた職務は、養護教諭 vs 学校薬剤師間で「H 排水の管理」、 「M 便所の管理」、 「P 学校保健委員会並びに保健計画の運営」、 「U 動物の飼育、緑化等情操面に配慮した環境整備」、 「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」であった（表5）。

養護教諭 vs 保健主事間では、「D 飲料水の管理」、 「G 水泳プールの管理」、 「M 便所の管理」、 「O ネズミ、衛生害虫等」、 「P 学校保健委員会並びに保健計画の運営」、 「T 清潔、衛生等の実質的な施設・設備管理」、 「V 健康に関する教科の計画、実施」に有意な差が見られた（表5）。

学校薬剤師 vs 保健主事間では、「A 照度及び照明環境」、 「B 騒音及び騒音環境」「C 教室等の空気」、 「N ごみの処理」、 「O ネズミ衛生害虫等」、 「T 清潔、衛生等の実質的な施設・設備管理」、 「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」で有意な差が見られた（表5）。

## 考察

この調査は、学校保健の取り組みで重視するものをあげる質問などが設けられている。これらの取り組みは全てが重要であるという事が前提であり、検査事項・職務の優先順位を論じようとするものではない。

### 1. 重視する職務

役職間で「重視する職務」は、順位にどの程度関連があるのかをみると、養護教諭 vs 保健主事間、学校薬剤師 vs 保健主事間では重視する順位が似ており、特に学校薬剤師 vs 保健主事間の関連は強い。

役職間で有意差がみられた職務は、養護教諭 vs 学校薬剤師間で、学校薬剤師の「重視する職務」の上位5位すべてが環境衛生検査の項目（A～O）であり、養護教諭の重視する職務の上位4位までが「その他の各種職務の項目（P～Z）」である。「G 水泳プールの管理」は、両者ともに上位にあがっている職務ではあるが、「重視する」順位に差があった。また、養護教諭が最も重視している職務である「X 児童生徒の健康状態、発達等、情報の把握」においては94%と、他の役職に90%以上が重視すると答えている職務はない。これらの違いによって養護教諭 vs 学校薬剤師間では「重視する職務」の順位相関が特に小さくなったと考えられる。

同様に学校薬剤師 vs 保健主事間では、「G 水泳プールの管理」、「A 照度及び照明環境」、「C 教室等の空気」が上位にあがっている職務であるが、薬剤師の重視する割合が非常に大きい。保健主事は、重視する職務に散らばりがあり、最も重視されている職務「G 水泳プールの管理」でも43名(65%)で、上位にあがっている職務への集中が他の職務よりも小さい傾向がみられた。

## 2. 時間を割いている職務

役職間での「時間を割いている職務」の順位にどの程度関連があるのかみてみると、養護教諭 vs 保健主事間では時間を割いている順位は似ているが、学校薬剤師と他の2役職との間の相関は非常に小さく、順位の違いが大きいといえる。

役職間で有意差がみられた職務は、養護教諭 vs 学校薬剤師間で「A 照度及び照明環境」、「C 教室等の空気」、「D 飲料水の管理」は、学校薬剤師が時間を割いている上位5つ中の3つであり、他の2役職との差が非常に大きい。同じ環境衛生検査であっても「I 学校の清潔」、「J 机、いすの整備」、「M 便所の管理」については、専門的な分析ではなく、日常の衛生管理に近い項目であるため養護教諭の方が担当する割合が高いためではないかと考えられる。養護教諭は、その他の各種職務項目について「時間を割いている割合」は高いが、学校薬剤師は、重視する職務と同じでその他の各種職務項目は低い。

養護教諭 vs 保健主事間で「G 水泳プールの管理」は、保健主事の「特に重視する職務」の1位の職務である。最も重視し、時間を最も割いている割合も高いので、名実ともに保健主事の主要な職務であると考えられる。保健主事は、重視する職務と同様に、時間を割いている職務においても他の2役職よりも散らばりがあり、やはり上位の職務への集中が小さい傾向が見られた。

## 3. 困難、負担に感じている職務

役職間での「困難、負担に感じている職務」の順位にどの程度関連があるのかみてみると、いずれの役職間でも有意な相関が得られたが、「重視する職務」、「時間を割いている職務」の順位相関と比べると小さく、その関連が弱い、全役職間で類似した傾向がみられた。

役職間で有意差がみられた職務は、養護教諭 vs 学校薬剤師で「P 学校保健委員会並びに保健計画の運営」は、他の2役職でも上位5つに含まれる職務である。養護教諭の1位であるこの職務は、他の2役職よりも負担に感じている比率が高い。「Y 児童生徒の傷病時の応急処置」、「U 動物の飼育、緑化等情操面に配慮した環境整備」については、学校薬剤師が他の2役職より困難に感じていた。応急処置について負担を感じているのは、薬剤師は非常勤であり、かつ養護教諭のように傷病時の応急処置の教育を受けていないことが考えられる。「U 動物の飼育、緑化等情操面に配慮した環境整備」については、時事的に鳥インフルエンザとの関連で、動物の飼育の仕方について相談を受けていたのかもしれない。

学校薬剤師 vs 保健主事間で保健主事は、各項目において特に高い回答率のものがなかった。順位も同率のものが多く、順位相関の値が低かったと思われる。

このように、学校薬剤師は、本職の傍らその専門性を反映した環境衛生検査を重視し、時間を割いている。養護教諭、保健主事は、児童生徒に直接関わる項目に携わっている。養護教諭は、同じ環境衛生検査でも専門的な分析ではない日常の衛生管理に近い項目、すなわち1つ1つが実践的な事項を担当し、また近年養護教諭のヘルスカウンセリング(健康相談活動)の充実が求められ、従来の職務に加えての健康相談活動等である。保健主事は、計画と調整に関わる機能的な事項<sup>4)</sup>を



行う立場であり、果たす役割が広く求められるため、回答が特定の職務に集中しなかったと思われる。このように、三者がその専門性を発揮して職務に当たっている。

一方で、小・中学校の校長および学校保健従事者と学校薬剤師を対象として、学校環境衛生改善に関連した意識について調査した結果、学校保健従事者と学校薬剤師との間で意識の相違が認められることや、日常の学校環境衛生検査において、学校保健従事者、養護教諭および担任による役割分担が認められたことが報告<sup>3)</sup>されている。役職間の意識差が存在する以上は、その差を互いに自覚し、それが学校保健の取り組みの障害とならないように努力してゆく必要がある。また、効率よく事を行うには役割分担も必要かも知れないが、教職員や学校三師などの学校保健関係者と密接な連携でチームを組んで進めることが必要で、意見交換の場が積極的に設けられることが望まれる。

しかし、養護教諭、学校薬剤師、保健主事に共通して、「時間をかけている」と同時に「負担とされている」率が高い「学校保健委員会の運営」、「学校保健の組織的活動の展開」の両項目は、関係者や地域・家庭との連携による組織的な活動における困難さを示す結果となっている。また、養護教諭が日常の実践で困難と感じる項目の第1位は、「医療的ケアの実践」で、2位は「学校の保健委員会の運営」、3位は「学校保健の組織的活動」、4位は「家庭・地域との連携・協力」、5位は「心身症への気づき」であるという報告<sup>5)</sup>がある。

平成9年9月の文部省保健体育審議会答申では、保健主事に健康に関する学校での指導体制の要だけでなく、家庭・地域社会と一体となった取り組みを推進するための中心的存在として新たな役割を果たすことを求めている<sup>6)</sup>。また、養護教諭に求める資質として、「企画力、実行力、調整能力」が必要であること等が答申された<sup>7)</sup>。

一方、薬剤師には、平成15年度の（社）日本薬剤師会の事業計画の中に、学校保健の項目が新設され、薬剤師の学校保健に対する協力体制が講じられた。そもそも、学校薬剤師の職務執行の準則の第一項に「学校保健安全計画の立案に参加すること」とある。具体的には、学校保健委員会で、学校の実態に合わせた諸計画が立案・実行されることである。

このように三者で、学校組織としての組織力を高め、地域社会と一体となった学校保健の在り方が求められている。お互いの長所や職務の共通理解を認め、補い合いながら、よりよい方向に向かって進んでいかなければならない。

## 要旨

鳥取県内の小・中学校の養護教諭、保健主事、および学校薬剤師の三者における学校保健の各種職務に対して、「特に重視する職務」、「特に時間を割いている職務」、「特に困難、負担を感じている職務」についての意識を無記名の自己記入式質問紙により調査した。すなわち、環境衛生検査の15項目とその他の各種職務11項目の中から、それぞれ5つを選択してもらった。

その結果は以下のとおりであった。

1) 養護教諭 vs 保健主事間、学校薬剤師 vs 保健主事間では「重視する職務」の順位が似ており、特に学校薬剤師 vs 保健主事間の関連は強かった。有意差がみられた職務は、養護教諭 vs 学校薬剤師間で、学校薬剤師の上位5位すべてが環境衛生検査の項目であり、養護教諭の上位4位までが「その他の各種職務の項目」であり、「児童生徒の健康状態、発達等、情報の把握」においては94%を占めた。

2) 養護教諭 vs 保健主事間では「時間を割いている職務」の順位は似ていたが、学校薬剤師と他

の2役職では順位の違いが大きかった。養護教諭 vs 学校薬剤師間で有意差がみられた職務は「照度及び照明環境」, 「教室等の空気」, 「飲料水の管理」で, 学校薬剤師が時間を割いている上位5つ中の3つであり, 他の2役職との差が非常に大きかった。「水泳プールの管理」は, 保健主事の「特に重視する職務」の1位の職務であり, 最も重視し, 時間を最も割いている割合も高いので, 名実ともに保健主事の主要な職務であると考えられた。

3) 役職間での「困難, 負担に感じている職務」の順位にはいずれの役職間でも有意な相関がみられた。「重視する職務」, 「時間を割いている職務」の順位相関と比べると小さく, その関連が弱い, 全役職間で類似した傾向がみられた。有意差がみられた職務は, 養護教諭 vs 学校薬剤師間で養護教諭の1位であるこの職務「学校保健委員会並びに保健計画の運営」は, 他の2役職でも上位5つに含まれる職務であった。

## 文献

- 1) 文部科学省編：学校環境衛生管理マニュアル, 2004
- 2) 日本学校薬剤師編：詳解「学校環境衛生の基準」, 2004
- 3) K. Otsubo, S. Kokudo, and K. Matsumoto：学校環境関連衛生の研究 校長, 学校保健従事者及び学校薬剤師の意識の相違 (A Survey of School Environment-Related Health Differences in Awareness Among School Principals, School Health Coordinators, and School Pharmacists), 学校保健研究, 42 Suppl., 185-187 (2001).
- 4) 三木とみ子：保健主事制度と養護教諭の役割, 学校保健研究, 第40巻, 第3号, 213-216, 1998
- 5) 木村龍雄：養護教諭の実践における困難要因に関する研究 —学校保健組織活動及び学校保健委員会を中心に—, 教育保健研究, 第14号, 95-104, 2006
- 6) 保健体育審議会：生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの進行の在り方について, 保健体育審議会答申, 17-31, 1997
- 7) 木村龍雄：学校保健活動における養護教諭の力量形成に関する研究 —アセスメント力量の要因分析と形成過程—, 教育保健研究, 第14号, 105-113, 2006

(2007年5月10日受付, 2007年5月18日受理)